



Story of their Success



志望校・学部を決めた時期と決め手は？

福井：中学生の頃からなんとなく教育学部がいいなと思っていて。最終、決めたのは高2の冬ぐらい。観光学部もいいなと思ってた時期もあったんですけど、やっぱり子どもと関わる仕事がしたいなと思って。志望校を大阪教育大学にしたのは、小学校に特化したコースがあることを知ったからです。入学した時から小学校教諭のことについて勉強できるのがいいなと思ったので。

上野山：私は、ずっと愛知県立大学が第一志望でした。高1の夏前くらいに渋谷先生と話をしていた時に「英語が好き」と言ったら愛知県立について教えてもらって、自分にピッタリだと思って。でも、模試の結果を見て、もう少し上を目指せるんじゃないかって思ったのが高3の夏頃。ひとつの大学しか見ないのももったいないなと思って、そこから変更しました。英米学科を選んだのは、中学校から英語が得意で、洋画や洋楽も好きだったから。留学もしたいし。

上野山：学校の授業もすごく真面目に受けてたよね。3年間同じクラスで見ててそう感じた。自分が寝てしまった分のノートとか見せてもらってたもん。

福井：そんなこともあったな(笑)

上野山：私は、高1の頃は毎日自習に来てました。高3のマネージャーの先輩が部活終わりに「一緒に帰ろう」って言ってきて、その先輩が和歌山駅に行くので、そのついでにアカデミーに(笑)。いつも来ていたからその間に渋谷先生と岡先生と色々話げできたかな。大学のこととか。高2になって部活で自分たちがメインになって忙しくなって、楽しすぎて、来なくなりましたけど(笑)。塾の授業も遅刻して。だから両立できてたかと聞かれたら難しいですね。夏休みも学校の宿題が出来ていなくて、渋谷先生に塾でするように呼ばれた。たぶん"先生と約束したら来ないと"っていうのがあって、『チャレ勉』とかも。それが自分にはすごく良かったんだと思う。塾に来たら勉強するし。

進学先

神戸市外国語大学
外国語学部



上野山 千紘さん
向陽高校
水球部マネージャー

進学先

大阪教育大学
教育学部



福井 梨華さん
向陽高校
卓球部キャプテン

高1高2で、部活と勉強の両立で工夫していたことを教えて下さい。

福井：定期テストは、テスト発表の1週間前に焦って勉強し始めてました。直前の土曜日曜とか、アカデミーの『チャレ勉』で一気に詰め込んだ感じですか。高1の頃からずっと渋谷先生が「部活終わった後にちょっとでも自習来なよ」って言ってきていたけど、なかなか行けなくて。高2になってから少しずつ自習に来ました。クラスライブは120分じゃなくて180分で受けていたから、塾がある日はそれで勉強時間を確保してたかな。

高3になってから、部活引退までの受験勉強はどんな感じ？

福井：部活は絶対に最後までやろうって決めてたから、手を抜かずに。勉強も、周りがだんだん引退して受験モードに切り替わっていく中で、それに乗り遅れたくないっていうのもありました。高3になってから部活終わった後にアカデミーに自習に来る子が多くて。あの子が毎日自習しているから、あの子が毎日塾行っているから、だから私も行こうみたいな感じで。一緒に頑張っていた感じです。

上野山：私は引退が高3の8月頃の部活だったけど、勉強量は…言えないくらい。部活が好きすぎ

インタビュアー

渋谷勇太
(ACターミナル校カウンセリングスタッフ)

て。寝落ちばかり。塾の授業は遅刻したりもあったけど、なんとか頑張ってきた感じ。でも部活が終わったらしっかり切り替えられたかな。

部活をやっていてよかったと思うことは？

上野山： 集中力が身に付いたと思います。長時間ずっと選手たちを見ているので。だから集中し続けることへの疲れは感じなくなったかな。

福井： 体力もついたよね。中学から6年間部活をやっていて、体力的にも精神的にもきつかったから、それに比べたら、勉強は座ってできるし(笑)

上野山： 忍耐力がつくよね。

福井： "ボロボロに負けて散々だった試合に比べたらこの模試はマジ"とか、"すごく寒い中、半袖で練習した時に比べたら、温かいところで勉強できるし"みたいな。我慢強くなった。あとは、推薦を出す時に志望理由書で自分の部活でやってきた体験談を書けたのも良かったかな。

上野山： あと、一つ下の後輩がすごく話を聞いてくれたのがありがたかった。受験も直前になってきたら、同級生には話づらい部分もあるけど、仲のいい後輩は話を聞いてちょうど良く対応してくれるから。行き詰った時とかは結構聞いてもらってたな。その子もアカデミー来てるし。あと、アカデミーの後輩たちが応援メッセージ書いてくれてたよね。

福井： あー、共テ前にね。ホワイトボードに。

上野山： あれもすごく嬉しかった。

福井さんは、推薦入試にチャレンジしようと思ったのはいつ頃？

福井： 志望校が決まった高2の終わりくらいです。1回チャンスが増えたらいいな、みたいな感覚で。大変だったのは志望理由書や面接準備のタイミングかな。9月・10月頃なんですけど、みんなは共テの勉強してて、自分も共テの勉強もしないといけないけど、推薦の準備もしなきゃっていう時。焦りがありました。

上野山： やってたよな。いつも面接の原稿みたいなもの持ってたもん。

福井： あとは、共テを受け終わってから推薦の発表までの間も。前期試験も後期試験も小論文の予定だったので、二次対策がひたすら小論文を書くしかなくて。前期試験までの間に推薦の発表があったから、どこかで推薦で受かっているかも"っていう期待もあるし、身が入らずふわふわしてた。あの期間は難しかった。岡先生に借りた小論文の本を読んだり、学校の図書館で教育に関する本を借りて読んだり。推薦ダメだったら、切り替えられた自信はないな。合格してて良かった。

しんどかったこと、それをどうやって乗り切ったかを教えてください。

福井： 私は高1からずっと数学が嫌いで。嫌いなりに時間をかけて頑張ってきたんですけど、なかなか伸びなくて。良くなったり悪くなったりじゃなくてずっと悪かった。12月に学校で

受けた共テの演習でも数学が散々な結果で。もうどうしたらいいのか分からなくなってました。でもACで数学の先生に話を聞いてもらって、分からないところは何回も聞きに行き。先生を捕まえまくって、今までよりも数学に割く時間を増やして。共テの直前は数学ばかりやってました。本番では思ったよりも点数がとれたので良かったです。とにかく質問しに行ったのが良かったのかな。

上野山： 私は苦手な日本史を、入試で使うかどうかをはっきり決められない状態で。でも9月10月頃の成績が本当にひどくて。それで、日本史は捨てて、その分の時間を他の教科に使いました。現代社会とか。福井の場合は"苦手教科を頑張った"だけど、私の場合は"苦手教科は捨てて、他を頑張った"で、私にとってはそれが結果的に良かったと思います。あのままだれも点をとろうとして日本史に時間を使ったら、他の教科が伸びなかったと思うから。あと、二次の勉強もなかなかしんどかった。記述だと自分で採点できないからどれくらいできているのかも分からないし。吉田先生のところに行って行ったら、自分のできなさとか弱いところが顕著にでるのがきつくて。渋谷先生とヨッシーに「毎日来なよ」って言われてなかったら、行けてなかったと思う。あれは言ってもらって良かった。本当に。それで二次でも書けたし。



Academy Campusで印象的だったことは？

福井： 『チャレ勉』(テスト前の無料イベント)は本当にいい！だって普通に家で6時間も集中できないし。始まったらみんながやってるから自分もやるし。分からないことあってもすぐ聞けるし。

上野山： 本当に家だとだらだらして終わるから『チャレ勉』は集中できるしいいよね。でも私は、静かすぎると逆に気になるタイプだから、チャレ勉には参加せずに1階の「日曜自習室」で勉強してた。あと『速読聴英語』。最初の頃は"何これ?"と思いながらやってたけど、共テのリスニング対策をやり始めて。まだリスニングの演習をがっつりやってなかった時期から、『速読聴英語』で対策できて良かった。

福井： 『速読聴英語』は高3の夏頃までやったかな。"1日に1長文"とあって学校でも塾でも言われるけどなかなかできなくて。でも『速読聴英語』で高1の時から"英語に触れる習慣"みたいなのができて良かったと思う。

上野山： 『サテライン』は、生物基礎の鈴川先生が大好きで。家でも何回も見て。

福井： イオンの覚え方ずっと言ってたよな。

上野山： 本当に衝撃で。面白すぎて。バイオームの単元

で、覚えられないし仕方ないかなって思ってたんですけど、それを語呂合わせでやってくれて。面白すぎて。『理社特訓(AC特別講座)』の時に笑いを堪えるのが大変で、マスクでなんとか隠してたもん。すごくハマって。家帰ってお母さんにも「こんな面白い語呂合わせがある」って教えて(笑)。友だちにも広めました。講座内でおススメされた鈴川先生の本も買って。すごく良かったから後輩にあげました。

あと、国語の記述対策(総合現代文〈国公立2次攻略の研究室〉)。今まで国語の記述って感覚でやってたところがあって、文字数におさまればオッケーみたいな感じだったけど、基準を教えてもらって。そこから考えてやるようになった。二次試験本番でも模範解答みたいに書けた。

福井： 私は日本史の土屋先生が良かった。『年末年始特訓(AC特別講座)』で最初から最後まで広くやって。結局日本史はそんなに点数取れなかったんですけど、受けてなかったらもっとひどかったと思う。先生がすごく良くて。友達とも学校で話題になるくらい。先生の真似したり(笑)。「第何回のここが良かったよね」みたいな。

上野山： 直前期はそんな話ばかりだったよな。

福井： 『クラスライブ』の授業は高1から全部とってたよな。

上野山： "やっといいた方がいいか"みたいな感じでね。

福井： 国語がさ…面白かったよな。長沼先生。もう長沼先生無しでは考えられない。敬語と助動詞の覚え方がもう、良くて。

上野山： 長沼先生の文法書に、ここだけ見ようっていうところを付箋貼って共テに持って行って。で、本当に国語の直前にそれを見てたら、実際の問題で2個出て！古文は満点取れました。感動した。いつもの授業も面白かったし。イラストとかを貼ってくれるから頭に入ってきやすいし。

福井： あと、その授業に関連した作者の話とか。小説ならその人の生き方の話とか。直接問題で問われるわけじゃないけど、背景とかを教えてくださいなのが面白かったです。

上野山： 時間が過ぎるのがあっという間だった。あと、私が受けてた『ハイレベル英語』は、授業内容が結構発展的だったから、たぶん今後"こういうことだったのか"って気づくことも多いかも。周りもすごい子たちばかりで、中学生の頃は"英語は自分がトップ"って思ってたところがあったけど、"これは舐めてたらいけない"と感じた。レベルが高くていい環境で勉強できたと思う。





二人とも中学生部GESから継続してくれたよね。

福井：GESの『日帰り特講』とかでターミナル校の本館(AC)に来てたから、アカデミーへの緊張感が無かったと思います。

上野山：慣れるのが早いよね。あと、先生たちがフレンドリーな感じ。渋谷先生にも勉強関係なくいろいろな話を聞いてもらって。いいところも悪いところも把握してもらってる感じで。受験勉強の進め方みたいなのもよく分かって無かったけど、そういうのもすごく聞きやすかった。GESの時もだけど、先生たちと距離が近い感じがするから、話しやすい。今もGESの先生にたまたま会ってもいろいろ話してくれるし。

福井：今も気にかけてくれて。GESに行っている妹に「お姉ちゃん最近どう？」とか、大学合格した時も喜んでくれたみたいで。

上野山：GESもACもチーム感があるよね(笑)

大学に入ってからどんなことをしたいと思っていますか？

上野山：留学かな。エストニアにももう1回行きたいし、あとはオーストラリア。動物たちを実際みたいと思う。漠然とだけど、世界を広げたいな。

福井：サークルとか何かしらはやりたいかな。運動するのも好きだし。あとは、小学校の先生を目指してるので、ボランティアとか自分で現場を見に行く機会をいっぱい作れたらなとは思ってます。

頑張っている後輩へのメッセージをお願いします。

福井：学校で毎週ある単語テストとか、週例テストとかは真面目にするべきだなって。私は高1の時はだいぶ怠けていて、国語とかわりと落ちてたんですけど、高2で長沼先生の授業を受け始めて自分が全然覚えられていないことに気づいて焦ったから。高1の時からコツコツ真面目にが大事な。

上野山：絶対差がつくよね。日本史も高2から、ちゃんとやっておけばよかったって悔やんだ。悪い点数とっても、その時は何とかかなるけど、最終なんかなくなってなかった。

福井：コツコツが大事ってよく言われるけど、その時はピンと来なくて。今になって分かるよね。

上野山：あと、私は自分のペースでやってきたタイプで。それでストレスなく落ち着いて最後まで行けたかな。人と比べてヤル気ができるタイプならいいけど、比べてしんどくなるなら"自分は自分"って感じで進めた方が良くないかな。

福井：私は今まで"あの子がやっているから頑張らないと"みたいなタイプですとやってきたけど、最後の方はそれがしんどくなってきて。推薦の準備で共テのことができてない時期、仕方ないって思ってもだんだん焦るし。比べすぎるのもよくないなって思った。結局みんな目指しているところは違うし、取らないといけない点数も違うし。共テ終わったらバラバラになって、自分だけになるから。周りとか比べすぎてもね。

上野山：そうそう。変に人に左右されずに、一緒に頑張れる友だちって大事。あと、共テ本番は緊張するけど、みんな仲間と思った方がいい。他校の子が多いと敵に見えるし、賢そうな子ばかりに見えるけど、みんな同じところを目指すわけじゃないから。仲間と思った方が楽だと思う。

編集後記 ~インタビューを終えて~



上野山さんは早くから志望校を決め、それに向けて高1から継続して頑張っていました。高2は部活が忙しくなり、なかなか勉強の時間を取ることが出来ませんでした。遅刻しながらでも頑張って通塾し、高3の模試でも好成績を取ったことで志望校を見直し、変更できました。

福井さんは、とにかく真面目にコツコツと頑張ってくれました。部活ではキャプテンとなり忙しい中でしたが、勉強のペースも崩すことなく毎回の定期テストで結果を残していました。共通テスト前に苦手な数学で苦しむことがありましたが、諦めずに何度も先生に質問をし、本番では問題なく得点できました。自分自身で将来について考え、しっかり調べたうえで学部や受験方法について決めたことも大きかったと思います。

2人ともGESから引き続きACに来てくれて素晴らしい結果で終わることが出来ました。これから色々なことに挑戦し有意義な大学生活を送って下さい。ありがとうございました！

ACターミナル校カウンセリングスタッフ 渋谷勇太